

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	〒104-0053 中央区晴海3丁目10-1 Daiwa 晴海ビル1階
園名	アスク晴海3丁目保育園

1. 活動のテーマ

自然や身の回りの音を色や光、影で表現してみよう。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

再開発地域であり、海が近くにある地域の特性から、風の音や工事の音、そして自然の音を日々の保育生活の中で感じている子どもたちが多いから。園内で聞こえる他クラスの子どもたちの声にも興味を示す子どもたちが多いため。

2. 活動スケジュール

6月：室内、戸外（道路沿い、運河沿い）にどのような音があるか探しに行く。
7月～12月：発見した音を廃材や楽器を使って表現してみる。
1月：ドラムと絵の具を使って、音を可視化してみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ 廃材 (空き箱、空き缶、ラップの芯、プラスチック製容器など)
- ・ タンバリン・鈴・トライアングル・ギロ
- ・ ミュージックパッド・スネアドラム・ミュージックポンプ・スチールタンドラム

備品としてミュージックパッド、スネアドラム、ミュージックポンプ、スチールドラム
ドラムスタンドを購入

9月のすくわく活動としてミュージックポンプ、スネアドラムを使用した。

身の回りある音を楽器を使い探した。

12月のすくわく活動としてライトテーブルを使用

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・ お部屋の中で聞こえる音はあるかな？散歩に行くとどんな音が聞こえるかな？
- ・ 人の声ってどうやって出ているのかな？
- ・ 音は目に見えるようにできる？

探究活動の様子：

- ・ 音探しでは、自転車、バス、犬などの他にもブタの音など想像して答える子どもがいた。実際には運河沿いに行ったこともあり、水やボートの音を聞くこともできた。
- ・ 廃材や楽器を使って音を表現する際には、自分で様々な物を使って自由に表現できた。
- ・ ドラムと絵の具を使った音を可視化する実験では、垂直方向に音が跳ねる様子や遠くまで絵の具が飛ぶ様子を興味深く観察していた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・ 「バスの音」「川の音」という表現は出来たが「ブーン」「ピチャピチャ」など擬音での表現を引き出すことは難しかった。
- ・ 音という一貫したテーマが子どもたちにも分かりやすかったのか、よく興味を示してい

た。音が可視化された際は自ら進んで観察していた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

- ・「音」とは何か？を自分たちで考え見つけてみる。
- ・自分や友だち、保育者の「声」はどこから出るのか？
- ・光りを使ってより音を感じよう。
- ・音は目で見られるか？確かめてみよう。

探究活動の様子：

- ・初めに室内で目隠しをして保育者や講師が動いた時、道具を使って鳴らしたりした音がどのように聞こえるか体験した。音について興味を持っていた。
 - ・聞いた音を頼りに戸外や室内で似た音を、木の棒、石、葉、廃材、等を使い自分たちで鳴らしてみようとしていた。「シャカシャカ」「トントン」「ギコギコ」って音がする。と興味を示していた。
 - ・雨の日にも戸外に行き、音を確かめた。道路で車が走る時の音の違いや水たまりを鳴らした時の音を自分の言葉で表現していた。
- 車 晴れは「ブーン」雨は「シャー」
水たまり 「ピチャピチャ」「ピチャピチャ」
- ・実際に聞いたり感じたりした音を廃材を使い表現しようとした。「こうじゃない」「こうしてみよう」と振り返る姿があった。

- ・トレーシングペーパーを二枚重ね使いその間に息をすると音が鳴り、それが「声」の正体と知った。
- ・自分たちがカラーセロハンで作った制作を光を照らしたり消した時の表現をしてみた。消している時は何もみえないから音がないと言っていた。
- ・スネアドラム、方眼紙、絵具を使い「音」の実験をした。絵の具をスネアドラムに垂らして鳴らしてみた。鳴らすことで絵の具が飛び散り、その様子を「すごい」と眺めていた。弾かれた絵の具が「音」であることを伝えると不思議そうにしていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・目隠しをした時の音の表現は様々であり、同じものでも子どもたちから聞こえてくる音の表現は様々であることに気が付いた。手を叩く 「パンパン」「タンタン」等
- ・晴れや雨の時は子どもたちの表現の違いがはっきりと出ていた。車の通る音の違い、雨の日は水たまり出来る等。
- ・音はすぐに表現できるツールだったため子どもたちもすぐに馴染めていた。「音」そのものの見える化をスネアドラムや絵の具を使い表現したが難しい様子だった。ドラムを叩きたい、絵具の飛び散りが楽しいことが優先されていた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

- ・「音」とは何か？を自分たちで考え見つけてみる。
- ・自分や友だち、保育者の「声」はどこから出るのか？
- ・光りを使ってより音を感じよう。
- ・音は目で見られるか？確かめてみよう。

探究活動の様子：

・初めに室内で目隠しをして保育者や講師が動いた時、道具を使って鳴らしたりした音がどのように聞こえるか体験した。友だち同士で「どんな音がする」と確かめあっていた。

・聞いた音を頼りに戸外や室内で似た音を、身体、木の棒、石、葉、廃材、等を使い自分たちで鳴らしてみようとしていた。「パンパン」「トントン」「シャカシャカ」「カンカン」「ギコギコ」って音がする。と興味を示していた。

・雨の日にも戸外に行き、音を確かめた。道路で車が走る時の音の違いや水たまりを鳴らした時の音を自分の言葉で表現していた。また木を揺らし雫が垂れると「ザー」「ポタポタ」と音の表現をしていた。

車 晴れは「ブーン」雨は「シャー」 晴れの方が音が明るい表現していた。

水たまり 「ビチャビチャ」「ピチャピチャ」

・実際に聞いたり感じたりした音を廃材を使い表現しようとした。

雨の音は何を使う、車の音は何か。と自分なりのテーマを決めて臨んでいた。

「こうじゃない」「こうしてみよう」友だち同士でも工夫し振り返る姿があった。

・トレーシングペーパーを二枚重ね使いその間に息をすると音が鳴り、トレーシングペーパーが震える音が身体でいう喉を震わすことになりそれが「声」の正体と知った。

「強く吹くと大きな音がするね」と声の音の強弱に気が付いていた。

・自分たちがカラーセロハンで作った制作を光を照らしたり消した時の表現を試してみた。

消している時は何もみえないから音がでないと言っていた。

明るくすると自分たちが製作したテーマに沿って音をつけ足していた。

・スネアドラム、方眼紙、絵具を使い「音」の実験をした。絵の具をスネアドラムに垂らして鳴らしてみた。鳴らすことで絵の具が飛び散り、その様子を「すごい」と眺めていた。弾かれた絵の具が「音」であることを伝えると関心を寄せていた。

また弾かれた絵の具は強くスネアドラムを叩くと遠くに飛びどこまで飛ばせるか競っていた。声も同じで大きければより遠くまで聞こえることを伝え関心をもっていた。

ふりかえり(保育士の気付き):

- ・目隠しをした時の音の表現は様々であり、同じものでも子どもたちから聞こえてくる音の表現は様々であることに気が付いた。手を叩く 「パンパン」「タンタン」「トントン」等また4歳児との違いとして、友だち同士で確かめあっていた。

- ・晴れや雨の時は子どもたちの表現の違いがはっきりと出ていた。車の通る音の違い、雨の日は水たまりが出来る等。

- ・音はすぐに表現できるツールだったため子どもたちもすぐに馴染めていた。「音」そのものの見える化をスネアドラムや絵の具を使い表現した際には鳴らす大きさの大小により絵の具がよく弾かれていたことに気が付きそれが音や声の大きさにも繋がることに気が付いていた。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児

(HPカ)



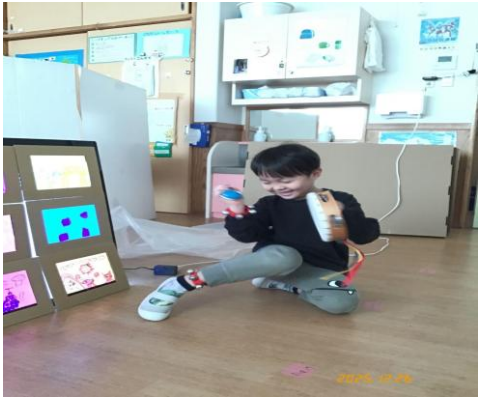
4 歳児



真 2枚
ますので



5歳児



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	〒104-0053 中央区晴海3丁目10-1 Daiwa 晴海ビル1階
園名	アスク晴海3丁目保育園

1. 活動のテーマ

バランス力を上げる。

<テーマ>

<テーマの設定理由>

体幹や体力を高める為に、遊びの前の分間運動「準備体操」等も取り入れている。昨年度よりメガロスジムにも体幹トレーニング活動を行ってもらうことで子どもたちも運動に興味を持っている為。

6~8 月バランスとは何かを知る。物を例えてバランスについて実験したりマットを使い自分自身でバランスを体験する。
9~11 月バランスストーンを使い体幹やバランスを培っていく
12~1 月バランスのおさらい、バランスストーンを使ったバランスの応用をしていく。

2. 活動スケジュール

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

玩具(ビオプロ)、マット、ペン、バランスストーン

備品としてバランスストーンを購入

9月、10月、11月、12月、1月のすくわく活動で主に使用。

園内に常設して子どもたちがやりたい時に使用したり、サークル活動の一部として取り入れたりしていった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・バランスってなんだろう？
- ・どうやったらバランスを取れるの？
- ・バランスを使った遊びってどんなもの？

探究活動の様子：

- ・初めは体ではなく積み木を使ってバランスについて考えていった。
- 息を吹きかける、指で押すなどしてバランスが崩れると倒れること知っていった。
- ・体を使って四つ這い、片足立ちなど様々な姿勢でバランスを実感した。
- ・バランスストーンは難易度を変えて繰り返し使用して遊び込んでいった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・片足立ち、バランスストーンなどはバランスを保つために保育者の手を握ることを提案したが、自分一人で倒れないように立ちたいという子どもがいた。そこからどのように立てば倒れないか自ら考えることにも発展していった。
- ・バランスストーンは何度も遊び込むことができた。赤、青、緑、黄色の4色あったので、子どもたちが自ら「赤だけ歩く」「青は踏まないで歩く」など決めてゲーム感覚で楽しみ、バランスも実感していくことができた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

- ・バランスとは何か？
- ・どのようにバランスをとるか？
- ・バランスが取れるとどのようなメリットがあるか。
- ・バランスを使った遊びは何があるのか？

探究活動の様子：

- ・バランスとは何かについて講師や保育者、友だち同士で考え意見をだしあった。

「片足で立つ」「物を積む」等の意見が出ていた。

- ・実際に玩具を用いてバランスについて知る。

1、崩さないようにビオブロを高く積んでみる。

2、風が吹いても倒れないように工夫をしていく。

1 のテーマは各々が自分なりにビオブロを積んでいた。2 のテーマに取り掛かる時は失敗を繰り返して行く中で風が吹いても倒れないようにパーテーションを立てたり土台をしっかりさせたり工夫が見られた。

・バランスの基礎を知ることによって実際にマットを使い自分自身でバランスをとって見た。保育者や講師に押されても倒れない工夫を考えて行った。片足で立つ意見が出てしまったがすぐに倒れてしまい「違う」「どうしたらいいかな」と考え倒れない強いポーズを探っていた。

・バランスは立つだけでなく指先でも感じることを伝えペンを一指し指で友だちと支え合うゲームを通じてバランスを知る機会を得た。

- ・バランスストーンを使いその上に立ち倒れないようにする工夫、ゲームを通じて体幹、

バランスというものを知るきっかけを得た。

ふりかえり(保育士の気付き)：

バランスとは何かの知識を得ることで、玩具でのバランスを取る際の工夫が顕著に現れていた。

繰り返し行う事で体幹も強くなり押されても倒れなかったり、受け身がきちんと取れるようになって行くことに気が付いた。

友だち同士でのビオブロを使うようになりすくわくを通じて関わりが増えたことに気が付いた。バランスを知ることで日常の活動にも効果が出ていた。すぐ転ばなくなる。遊びの工夫。荷物を運ぶ時の腕や体の使い方等。

【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・バランスとは何か？
- ・どのようにバランスをとるか？
- ・バランスが取れるとどのようなメリットがあるか。
- ・バランスを使った遊びは何があるのか？

探究活動の様子：

- ・バランスとは何かについて講師や保育者、友だち同士で考え意見をだしあった。

「両足で立つ」「物を崩さないように積む」「片足で立ち両足がつかないようにする」等の意見が出ていた。

- ・実際に玩具(ビオブロ)を用いてバランスについて知る。

1、崩さないようにビオブロを高く積んでみる。

2、風が吹いても倒れないように工夫をしていく。

1のテーマは各々が自分なりにビオブロを積んでいたが、友だち同士で競い合ったり、協力したりする姿見られる。

2のテーマに取り掛かる時は失敗を繰り返して行く中で風が吹いても倒れないようにその前に友だちが立ち防いだり、手で隠したり、パーテーションを使ったりと工夫がみられた。土台をしっかりとさせたりしていた。

・バランスの基礎を知ることで実際にマットを使い自分自身でバランスをとってみた。保育者や講師に押されても倒れない工夫を考えて行った。両足で立ち踏ん張って見たり四つん這いになったり胡坐をかいて座ったりしていた。また押される時に後ろ、横、前等自分自身がどこに力を入れているか確かめた。

- ・バランスは立つだけでなく指先でも感じる事が出来ることを伝えペンを一指し指で友だちと支え合うゲームを通じてバランスを知る機会を得た。
- ・バランスストーンを使いその上に立ち倒れないようにする工夫、ゲームを通じて体幹、バランスというものを知るきっかけを得た。

ふりかえり(保育士の気付き)：

バランスとは何かの知識を得ることで、玩具でのバランスを取る際の工夫が顕著に現れていた。

繰り返し行う事で体幹も強くなり押されても倒れなかったり、受け身がきちんと取れるようになって行くことに気が付いた。

友だち同士でのビオプロを使うようになりすくわくを通じて関わりが増えたことに気が付いた。バランスを知ることで日常の活動にも効果が出ていた。すぐ転ばなくなる。遊びの工夫。荷物を運ぶ時の腕や体の使い方等。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児

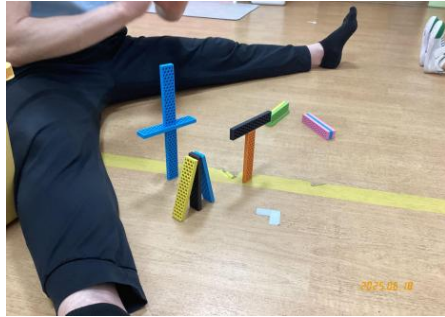
(HPな

真 2
ます

い。)



4 歳児



真 2
ますの



5歳児



写真 2枚
ありますので

